

優れた輸送性能と航続距離、そして切れ目のない防空を可能にした KC-767 空中給油・輸送機

給油活動
初公開



① KC-767空中給油・輸送機の間近に迫る F-15戦闘機



これがKC-767空中給油・輸送機だ!
AWACSと同じ機体

11月27日、航空自衛隊小牧基地にある第1輸送航空隊所属 KC-767空中給油・輸送機の給油活動が初めて公開された。小牧基地を離陸した KC-767空中給油・輸送機は、小松上空を通過し日本海上空のG-空域で飛行実験団の F-15戦闘機へ給油を行った。高度7000km、時速750kmという状況の中、機体後部にあるブームから給油。F-15の燃料口にブームを結合し終わるまで1分程しかかからない。ブームオペレーターが機内のモニターを見ながら的確に接合し給油をしていく。



① フライング・ブーム 黒い羽のようなものがラダーペーター。その下のブームからテレスコップ・チューブが伸び給油した (今回は6 m)

基地周辺の騒音防止・事故防止にも有効
KC-767 空中給油・輸送機は現在日本とイタリアのみが各4機ずつ保有しており、日本は平成22年4月から運用を開始。空中給油装置の他、敵味方識別装置を付加している。空中給油装置は「フライング・ブーム方式」を採用しており、カメラシステムはBARCS (3次元立体視覚カメラ) と SARCS (2次元3方向IRカメラ) を採用。他の空中給油機は、目視で給油状況を確認するが、このKC-767空中給油・輸送機は機内モニターで確認し給油することが出来る。



① フィリピンへ空輸される救援物資等

② 専用のコンテナ

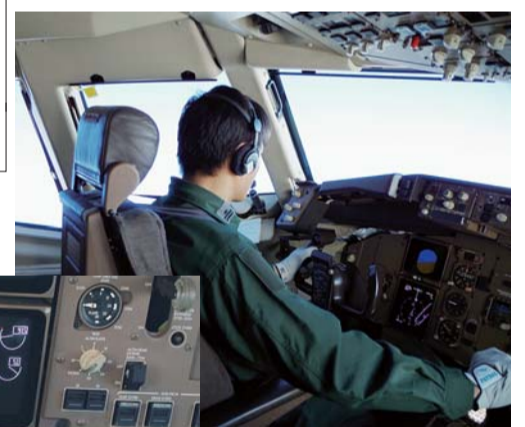


③ 人員は上から搭乗。貨物はその下。燃料は更にその下

統合任務部隊
フィリピンでも大活躍
KC-767 空中給油・輸送機を活用することによって、航続距離が長くなり戦闘機の行動時間や行動距離の延長、更に安全面でも期待される。例えば、パイロットの体力は8時間と言われ F-15 の滞空時間が約4時間の現在、給油のために基地に戻る必要がなくなる



ため、遠方の作戦にも参加できること。基地におられない状況になった時でも回復するまで待つなり、他基地に飛行する等航空機の安全が確保できることなどだ。また今回のフィリピンでの災害派遣でも使用されたことでも解るように、輸送能力も高い KC-767 空中給油・輸送機。来年度には更に4機増えることになっている。



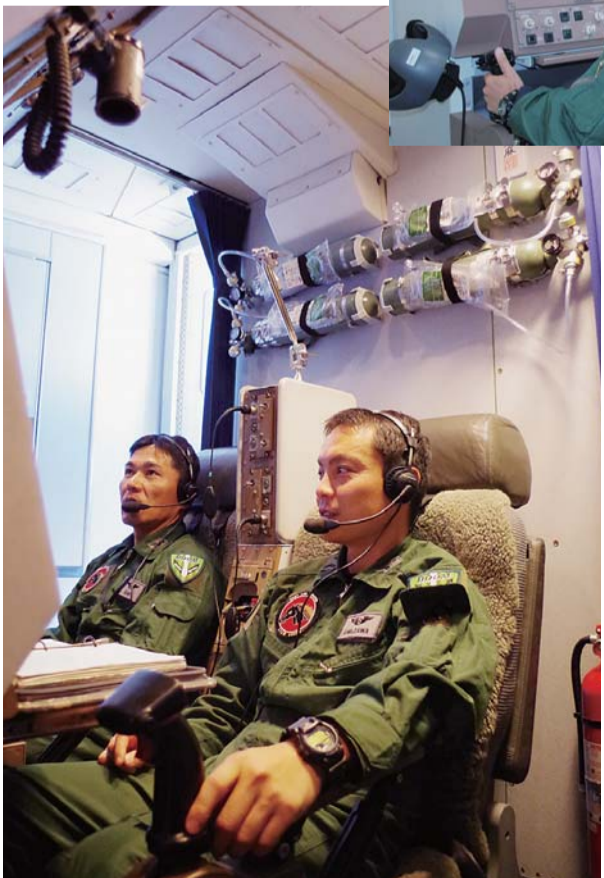
① コックピット内

② 手元には給油状況を確認するためのモニターが



① 小牧基地内のブームオペレーターのトレーナー

② ブームオペレーター



③ このレールに沿って座席仕様や貨物仕様にと変更できる
④ 機内



① 仕様を変更中